

近代京都の着物図案に関する研究

A Study of the Kimono Designs in Kyoto during the Meiji, Taisho and early Showa periods

山本 真紗子^{*1+}, 並木 誠士^{*2+}, 青木 美保子^{*3+}, 山田 由希代^{*4+}, 岡本 隆明^{*5+}
Masako Yamamoto^{*1+}, Seishi Namiki^{*2+}, Mihoko Aoki^{*3+}, Yukiyo Yamada^{*4+}, and Takaaki Okamoto^{*5+}

*1 立命館大学衣笠総合研究機構 京都市北区等持院北町 56-1

Kinugasa Research Organization, Ritsumeikan University,
56-1 Toji-in Kitamachi Tojiin Kita-ku, Kyoto, Japan

*2 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン学部門
Kyoto Institute of Technology, Faculty of Design Science, Department of Design,

*3 神戸ファッション造形大学ファッション造形学部
Kobe University of Fashion and Design, Faculty of Fashion and Design,

*4 京都府立堂本印象美術館,
Kyoto Prefectural Insho-Domoto Museum of Fine Arts,

*5 立命館グローバル・イノベーション研究機構
Ritsumeikan Global Innovation Research Organization

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : This study aims to survey materials, sources and information related to kimono, kimono designs, and textiles produced in Kyoto during the modern period in Japan. Collections located in the city of Kyoto with materials related to our research were contacted by mail and the resulting survey has cast some light on the whereabouts and current state of kimono during the modern period. In the next fiscal year, interviews will be conducted with the staff in charge of the collections. Another goal for the next fiscal year will be to list the materials that appeared in the newspaper Shenshoku Hinode Shinbun which will be an invaluable tool in understanding the trends of the textile industry in Kyoto during the early Showa period (1932-1940). Finally, interviews will be arranged with Takashimaya department store staff in order to understand the important role played by the kimono design department of the store (Takashimaya Hyakusen-kai) in establishing kimono fashion trends during the years before the Second World War. All the preliminary survey activities listed above have been completed and new survey projects will start in the next fiscal year.

①本研究の目的

近代染織、とりわけ着物の生産地として栄えた京都市内に点在する近代の着物関連資料の所在や現

*1) mayama1212@gmail.com

状に関する調査をおこない、情報の整理と体系化を行うことを目指す。共同研究にあたって、各研究者の所属先における所蔵資料を手始めに、京都市内で所蔵されている資料の調査と関係者への聞き取り調査を実施する。また共同研究者は、本共同研究で収集した調査・資料を元に、それぞれの設定した研究課題に取り組む。

②平成 22 年度の活動

- (1) 京都市内における近代染織関連資料の所在確認(アンケート調査)
- (2) 『染織日出新聞』の調査
- (3) 高島屋・百選会に関する聞き取り調査

(1) 京都市内における近代染織関連資料の所在確認(アンケート調査)

京都市内の資料群の現状を把握するための基礎調査として、京都市内の博物館・美術館、大学、企業、個人所蔵者を対象に、所蔵資料とその整理・公開状況に関するアンケート調査を実施した。所蔵資料の概要のほか、整理状況(目録・データベースの有無)、公開状況等について質問したアンケート用紙を、調査対象機関(30 件)に郵送した。今回の調査で許可が得られた機関・所蔵者に対しては、来年度以降訪問・聞き取り調査を実施する予定である。

(2) 『染織日出新聞』の調査

京都の染織業界の動きを知るための基礎資料として、『染織日出新聞』の調査を開始した。『染織日出新聞』は昭和 7 年 4 月 1 日創刊、昭和 15 年 8 月 29 日まで日出新聞社よりほぼ隔日のペースで発行された(昭和 15 年 3 月 7 日以降『週刊経済』に改称)。呉服店や百貨店の活動や市況の報告、京都市内外の産地の動向といった通常の掲載記事に加えて、広告もそのデザインや出稿者に当該期の特色があらわれていると考えられる。本年度は記事の目録化をおこなうための予備調査をおこなった。来年度以降は、目録化にむけてのデータ採取を開始する。

(3) 高島屋・百選会に関する聞き取り調査

近代の着物図案の作成の具体的事例として、高島屋百選会をとりあげ、その関係者への聞き取り調査とそれにさきがけての予備調査をおこなう。当該時期の着物図案の流行を仕掛けた呉服店・百貨店意匠部の図案創作の現場の実態を把握する。下記の通り、3 月 10 日(木)に、高島屋百選会に関係されていた元高島屋社員の方への聞き取り調査を予定している。

この調査に伴い、1 月 25 日(火曜日)に、高島屋史料館館長へ調査依頼の挨拶、同館社員の方との聞き取り調査当日の段取りの打ち合わせを行った。なお、聞き取り調査事前準備として、1 月 25 日(火曜日)、2 月 14 日(月曜日)に、高島屋史料館で、同館所蔵の百選会図録および関係資料の調査を行った。

日時 3 月 10 日(木) 午前 11 時～15 時

場所 高島屋史料館アーカイブ室

出席予定 上村、表田、喜多、山口(デザイナーOB・OG) 橋野(事務局 OB)

池田(高島屋 MD 本部呉服 DV 長) (敬称略)

司会・質問 文化ファッション研究機構共同研究員

青木(神戸ファッション造形大学) 山本(立命館大学) 山田(堂本印象美術館)

高島屋広報担当者、史料館長他若干名が傾聴